

3.2.11 災害の状況

1) 災害による被害の発生状況

横浜市における平成27年の災害は、地震3回、遠地津波1回、風水害18回でした。

市全域についての被害の多い項目としては、その他の被害のその他が52箇所、住家被害の半壊の14棟となっています。神奈川区では住家被害の半壊が1棟、西区ではその他の被害のその他が1箇所でした。これらは、いずれも風水害による被害となっています。

調査対象地域における平成27年の災害による被害の発生状況は、表3.2-37に示すとおりです。

表 3.2-37 災害による被害の発生状況件数（平成27年）

被害分類	人的被害				住家被害						非住家被害					
	死者	行方不明者	負傷者		全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	公共建物					
			重傷者	軽傷者							全壊	半壊	一部損壊	浸水	その他浸水	
	人				棟											
横浜市	—	—	—	5	—	—	14	1	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川区	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
西区	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

被害分類	非住家被害					田畑被害	その他の被害							
	その他					畑の流出・陥没	文教施設 (学校など)	道路	河川	がけ崩れ	鉄道不通	ガス	ブロック塀等	その他
	全壊	半壊	一部損壊	浸水	その他浸水									
	棟					ha	件		箇所					
横浜市	—	1	6	—	1	—	—	4	—	8	—	—	2	52
神奈川区	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
西区	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1

資料：「平成27年横浜市の災害」（横浜市消防局危機管理室緊急対策課、平成28年3月）

2) 急傾斜地崩壊危険区域

「急傾斜地崩壊危険区域」とは、斜面の角度が30度以上、がけの高さが5m以上、がけ崩れの被害を受けるおそれのある人家が5戸以上であることの要件に該当する区域で、土地所有者、借地人などの関係権利者からの要望に基づき神奈川県が指定する区域です。調査区域における急傾斜地崩壊危険区域は、図 3.2-22 に示すとおりです。

調査区域には急傾斜地崩壊危険区域が僅かに点在していますが、対象事業実施区域には急傾斜地崩壊危険区域の指定はありません。

3) 土砂災害警戒区域

「土砂災害警戒区域」とは、梅雨時期の集中豪雨や台風に伴う豪雨などにより、土砂災害（急傾斜地の崩壊、土石流、地すべり）が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、神奈川県が指定します。調査区域における土砂災害警戒区域は、図 3.2-22 に示すとおりです。

調査区域には土砂災害警戒区域が点在していますが、対象事業実施区域には土砂災害警戒区域の指定はありません。

4) 浸水想定区域

横浜市では、河川はん濫による浸水想定区域を「洪水ハザードマップ」として、下水道や水路等からの浸水想定区域を「内水ハザードマップ」として公表しています。

調査区域における浸水想定区域は、図 3.2-23 (1)～(2) に示すとおりです。

対象事業実施区域の西側約100mに、内水の「2cm未満道路冠水相当」の浸水想定区域がありますが、対象事業実施区域には浸水想定区域はありません。

5) 高潮警戒区域

横浜市では、伊勢湾台風相当の条件で発生する可能性がある高潮（海拔 2.2～2.7m）により、浸水する可能性がある区域を「高潮警戒区域図」として公表しています。

調査区域における高潮警戒区域は、図 3.2-24 に示すとおりです。

対象事業実施区域の一部が高潮警戒区域となっています。

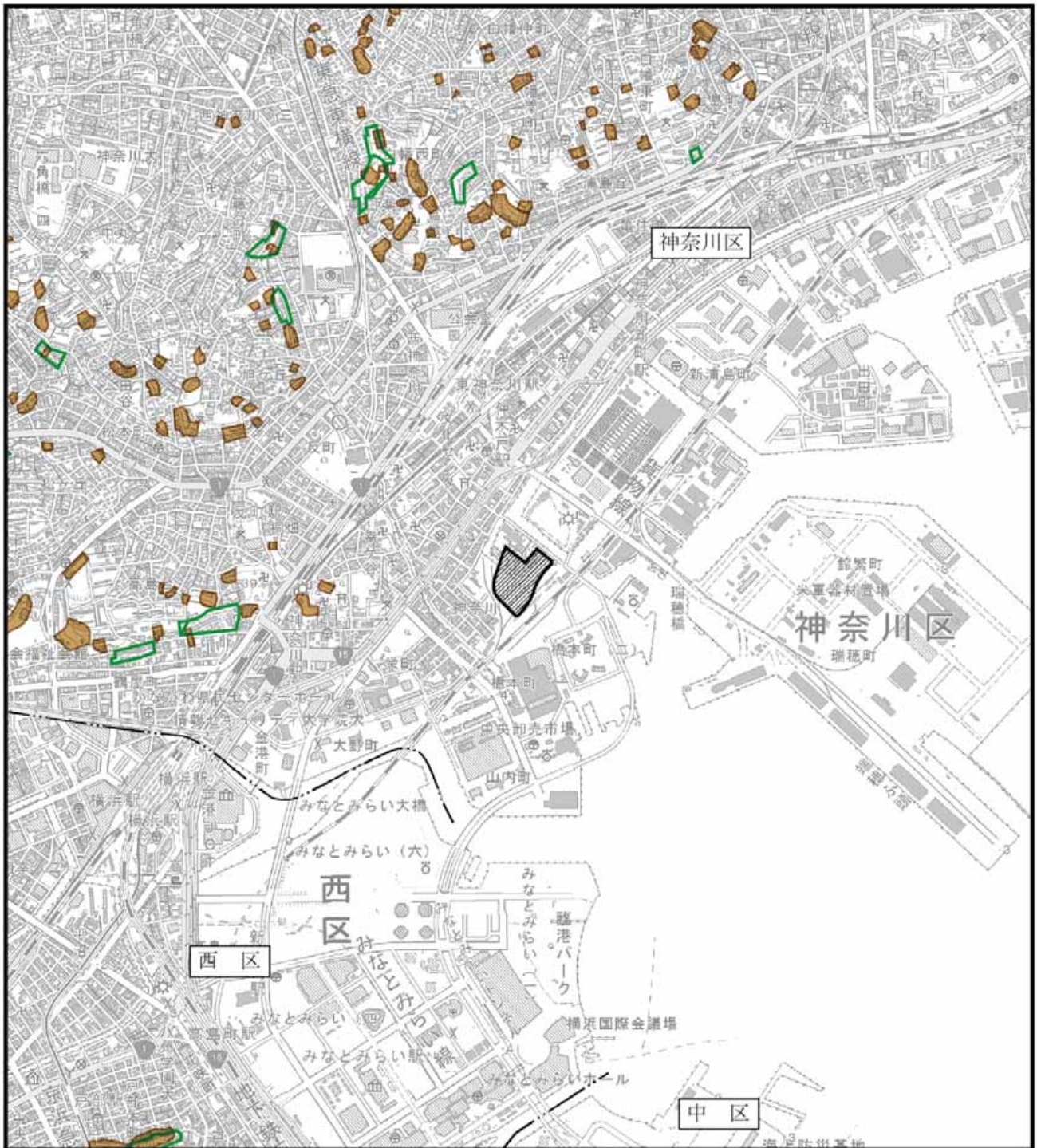
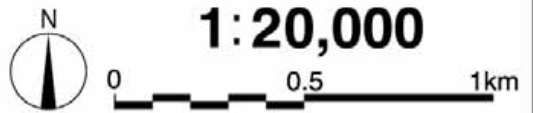


図 3.2-22 急傾斜地崩壊危険区域及び土砂災害警戒区域図

凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 区 界
-  : 急傾斜地崩壊危険区域
-  : 土砂災害警戒区域



資料：「土砂災害ハザードマップ」
 (横浜市建築局ホームページ、平成 28 年 4 月閲覧)

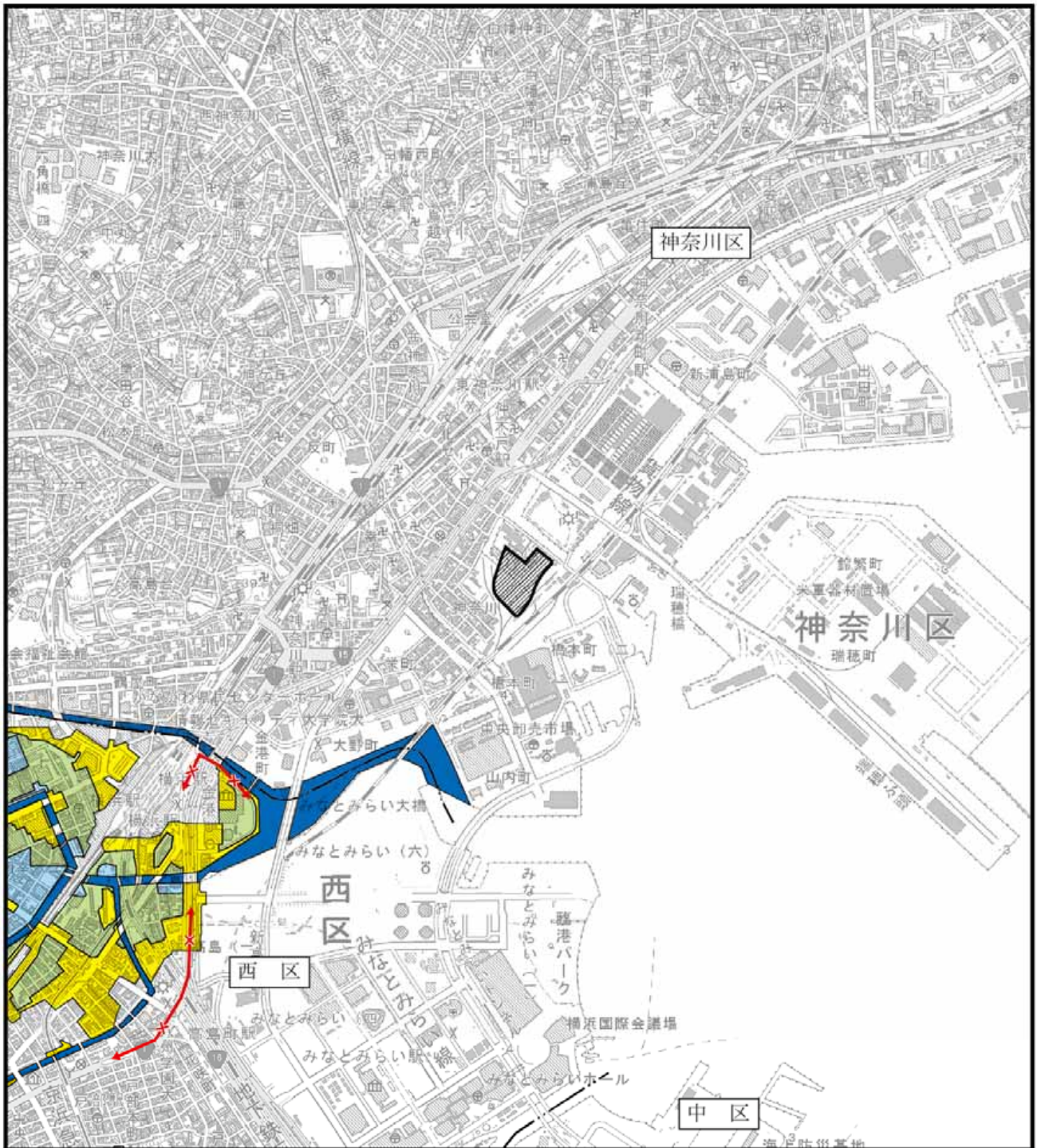





図3.2-23(1) 浸水想定区域図（洪水）

凡 例




 : 対象事業実施区域

 : 二級河川

--- : 区 界

 : 地下状道路（大雨時に冠水する危険のある箇所）

浸水想定区域

-  2.0m 1階の軒下までつかる程度
-  1.0m 大人の腰までつかる程度
-  0.5m 大人のひざまでつかる程度



1:20,000

0 0.5 1km

資料：「浸水（内水・洪水）ハザードマップ」
（横浜市環境創造局ホームページ、平成28年4月閲覧）

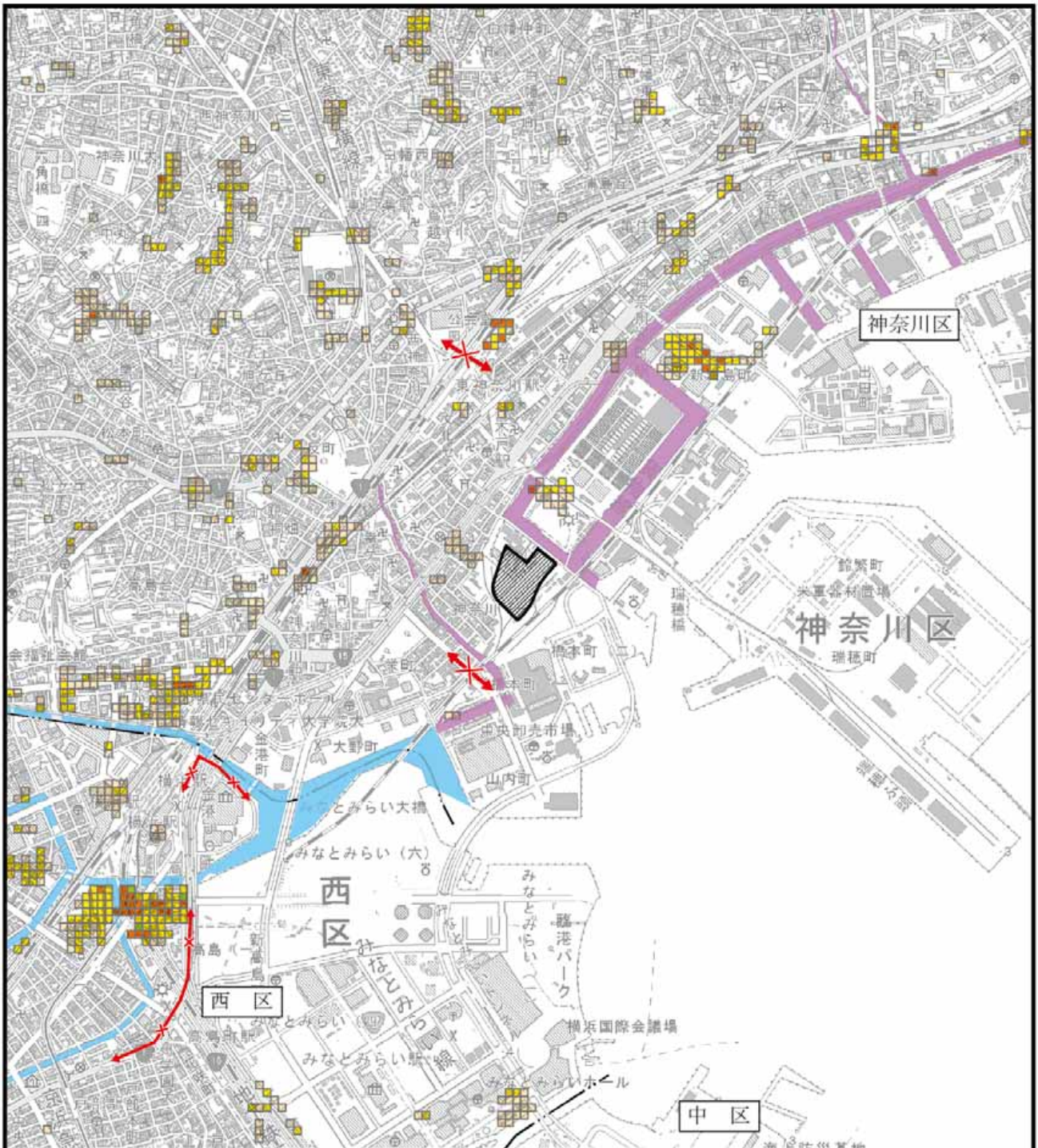


図3.2-23(2) 浸水想定区域図(内水)

凡 例

: 対象事業実施区域

— — — : 区 界

浸水想定区域

: 50cm ~ 1.0m 床上浸水相当
大人の腰まで

: 20cm ~ 50cm 床下浸水相当

: 2cm ~ 20cm 道路冠水相当

: 2cm 未満道路冠水相当

: 二級河川

: 河川法準用河川(横浜市管理)

: 地下状道路(大雨時に冠水する危険のある箇所)

注) 入江川第五小派川及び入江川小派台川は
平成28年3月31日に廃川されました。

資料: 「浸水(内水・洪水)ハザードマップ」
(横浜市環境創造局ホームページ、平成28年4月閲覧)



1:20,000

0 0.5 1km

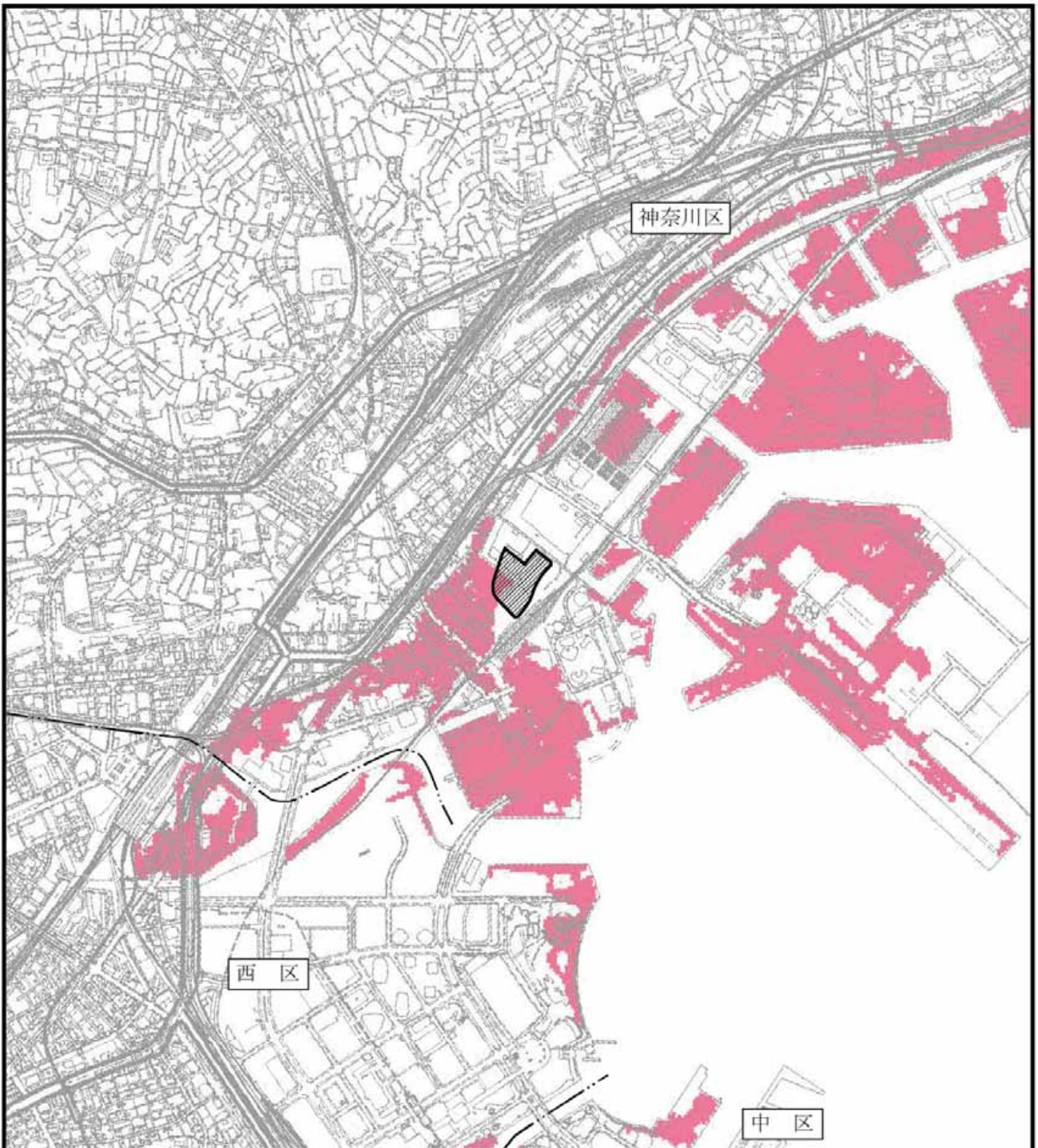





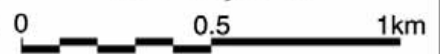
図3.2-24 高潮警戒区域図

凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 区 界
-  : 高潮警戒区域



1:20,000



資料：「高潮警戒区域図」（横浜市総務局ホームページ、平成28年4月閲覧）

6) 液状化の可能性が高いと想定される地域

「液状化の可能性が高いと想定される地域」は、その地点での液状化の危険度を表す PL 値（FL-PL 法（道路橋示方書・同解説Ⅴ耐震設計編）による）を用いて液状化危険度の判定を行い、危険度が高いと判定された区域です。横浜市では平成 24 年 10 月に公表した「横浜市地震被害想定調査」で、被害想定の対象とした「元禄型関東地震」「東京湾北部地震」「南海トラフ巨大地震」の地震の液状化危険度分布を「液状化マップ」として公表しています。調査区域における液状化の可能性が高いと想定される地域は、図 3.2-25(1)～(3)に示すとおりです。

対象事業実施区域は、「3.2.2 地形、地質、地盤の状況」に示したとおり埋立地となっており、液状化の可能性が高いと想定されます。

7) 津波浸水予測図

「津波浸水予測図」とは、発生頻度は極めて低いものの発生すれば甚大な被害をもたらす「最大クラスの津波」が陸上に到達した場合を予測し、浸水する陸域の範囲、浸水深さ等を示した図で、神奈川県が一定の条件に従って予測を行った結果に基づき、津波による浸水が予測される区域を示しています。

対象事業実施区域の位置する神奈川区の津波浸水予測図より、それぞれの地震に対する横浜港海岸（内港地区）における最大津波高さ及び最大波到達時間を表 3.2-38 に示します。このうち、最も被害が大きいと予想される相模トラフ沿いの海溝型地震（西側モデル）の津波浸水予測図を図 3.2-26 に示します。対象事業実施区域は、場所によっては 2～3m の浸水が予測されます。

表 3.2-38 対象地震と津波被害の予測（横浜港海岸（内港地区））

No.	地震名	最大津波高さ (m)	最大波到達時間 (分)
①	相模トラフ沿いの海溝型地震（西側モデル）	3.9	128
②	相模トラフ沿いの海溝型地震（中央モデル）	3.5	130
③	西相模灘地震	1.0	95
④	大正関東地震	2.2	118
⑤	元禄関東地震	3.5	126
⑥	元禄関東地震と国府津-松田断層帯地震の連動地震	3.5	126
⑦	慶長型地震	3.6	99
⑧	明応型地震	2.9	108
⑨	神奈川県西部地震	1.1	85

資料：「津波浸水予測図（9つの地震ごとの予測図）」（神奈川県県土整備局、平成27年6月）

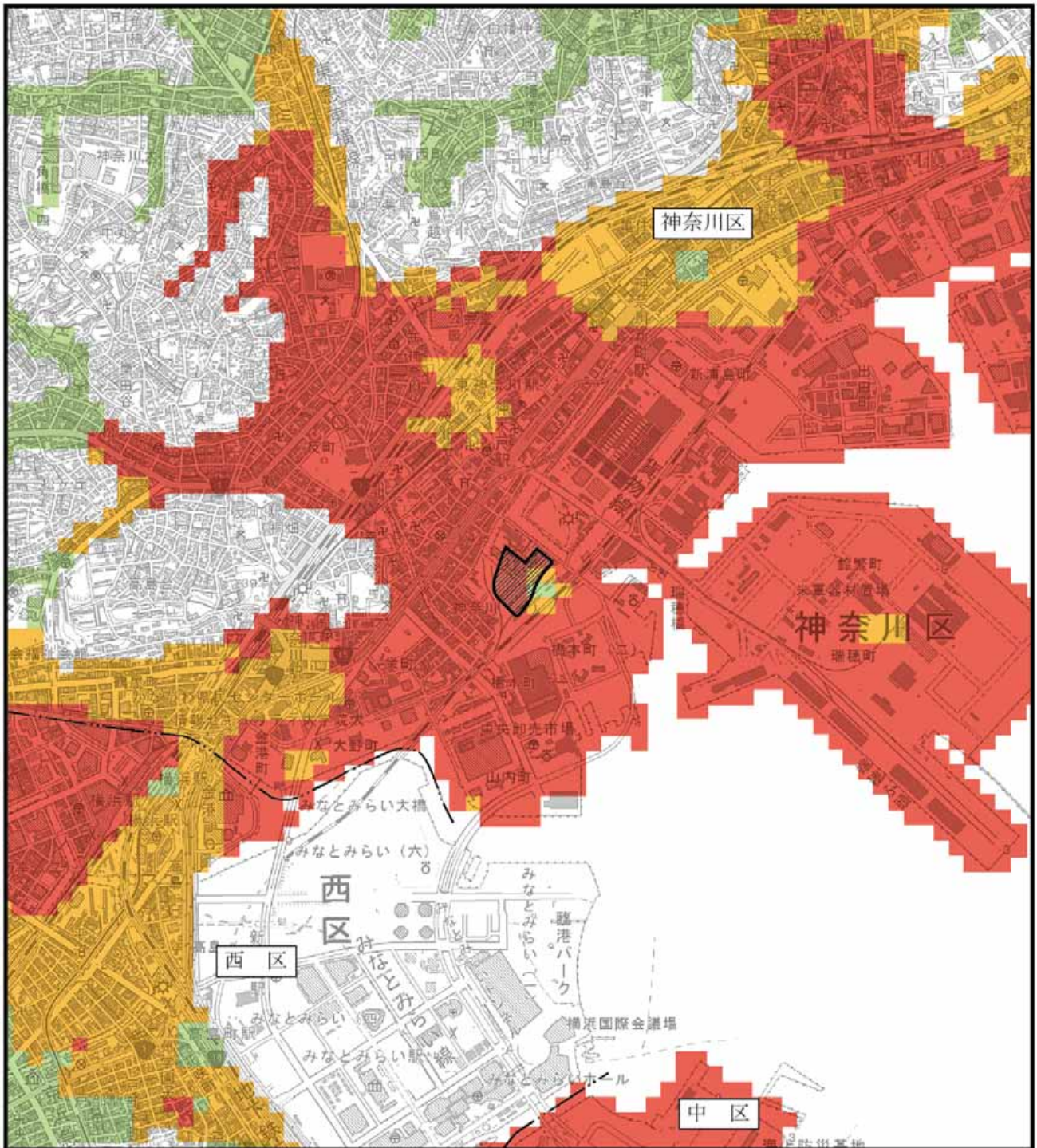







図3.2-25(1) 液状化の可能性が高いと想定される地域 (元禄型関東地震)

凡 例

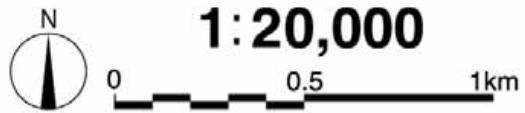
 : 対象事業実施区域

--- : 区 界

液状化危険度

-  : 液状化危険度が高い (15 < PL)
-  : 液状化する可能性がある (5 < PL ≤ 15)
-  : 液状化危険度は低い (0 < PL ≤ 5)
-  : 液状化危険度はかなり低い (PL=0)

資料: 「液状化マップ」
(横浜市総務局ホームページ、平成28年4月閲覧)



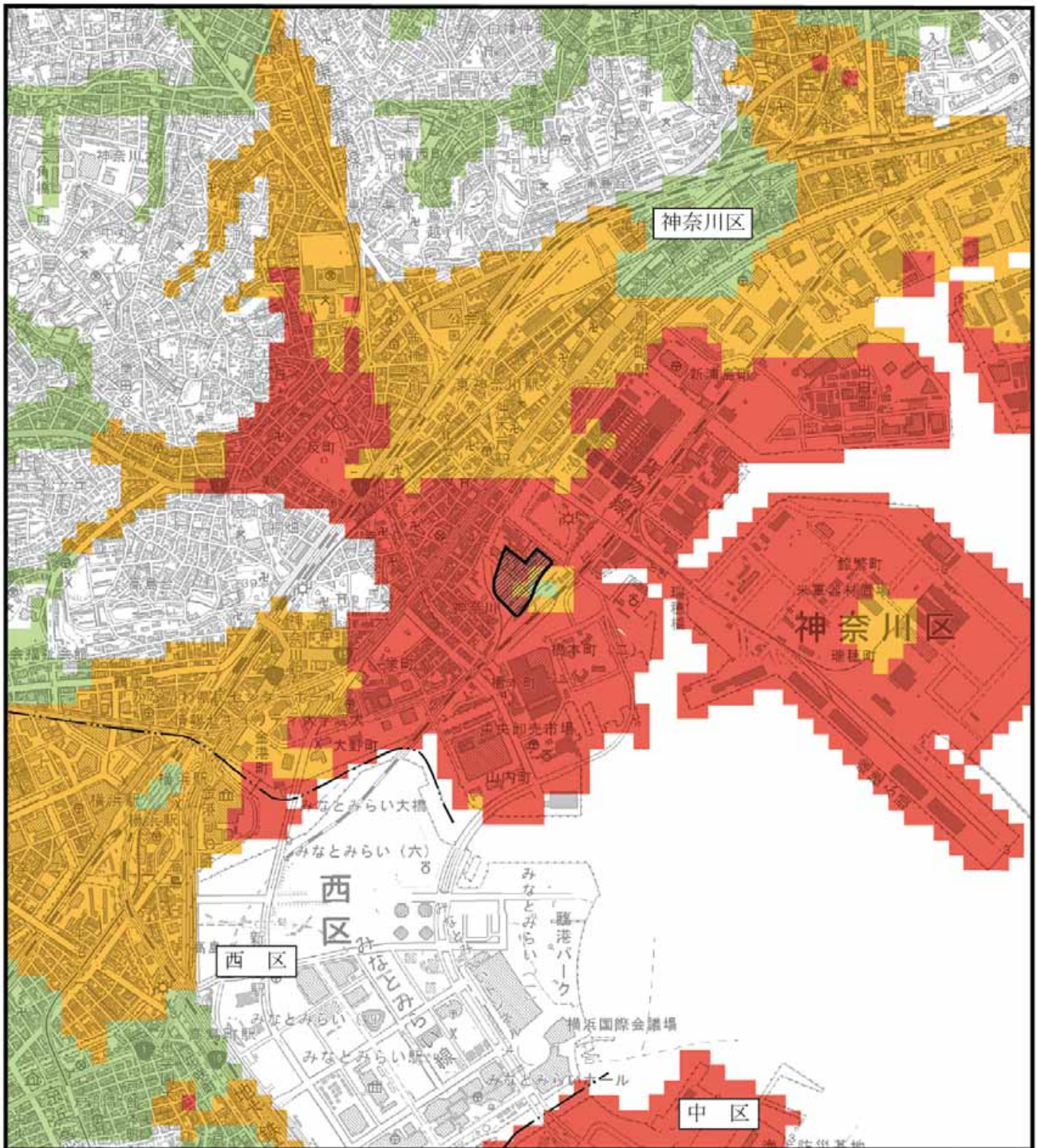







図3. 2-25 (2) 液状化の可能性が高いと想定される地域 (東京湾北部地震)

凡 例

 : 対象事業実施区域

--- : 区 界

液状化危険度

-  : 液状化危険度が高い (15 < PL)
-  : 液状化する可能性がある (5 < PL ≤ 15)
-  : 液状化危険度は低い (0 < PL ≤ 5)
-  : 液状化危険度はかなり低い (PL=0)

資料：「液状化マップ」
(横浜市総務局ホームページ、平成28年4月閲覧)



1:20,000

0 0.5 1km

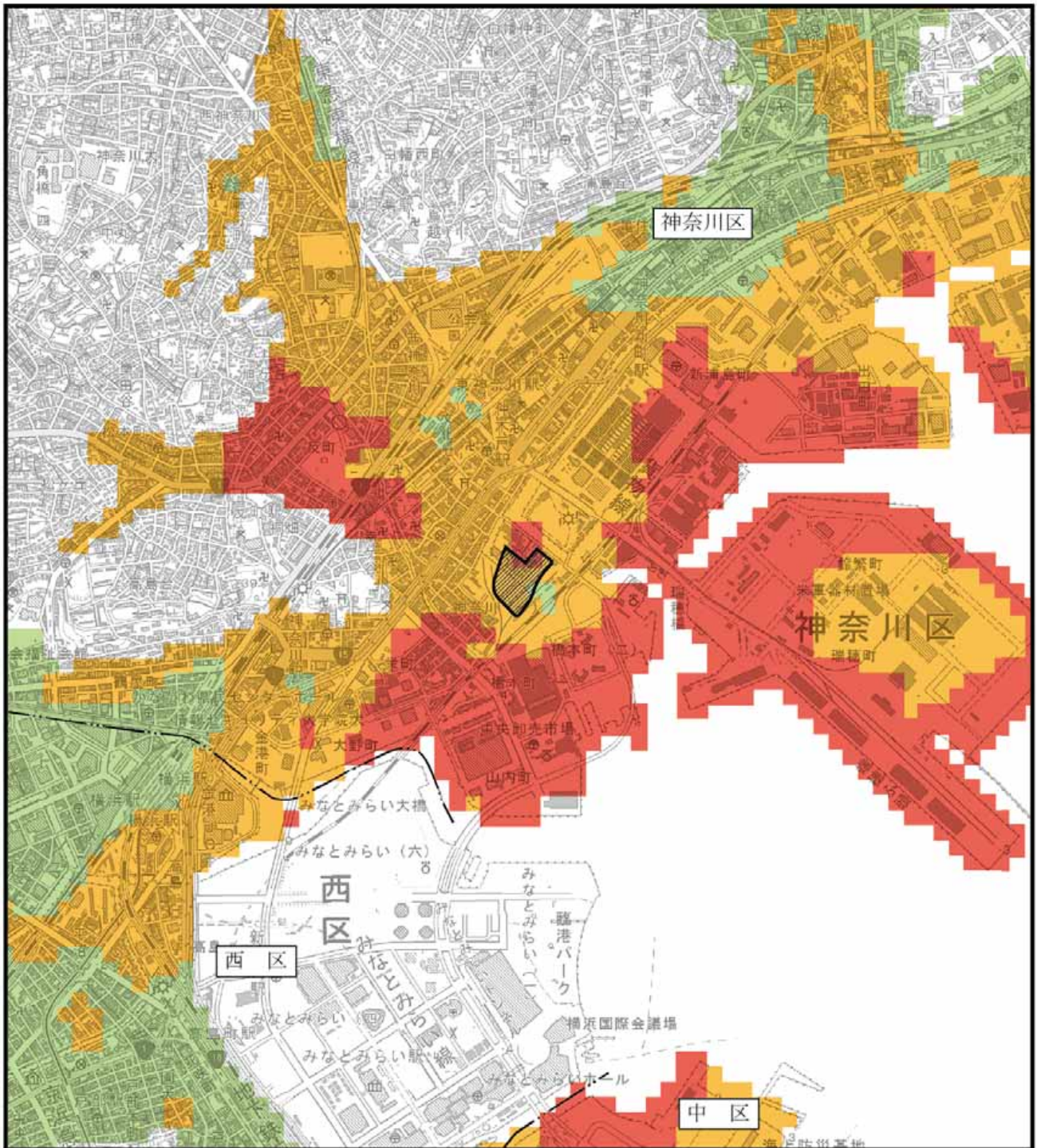







図3. 2-25 (3) 液状化の可能性が高いと想定される地域 (南海トラフ巨大地震)

凡 例

 : 対象事業実施区域

--- : 区 界

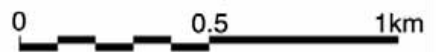
液状化危険度

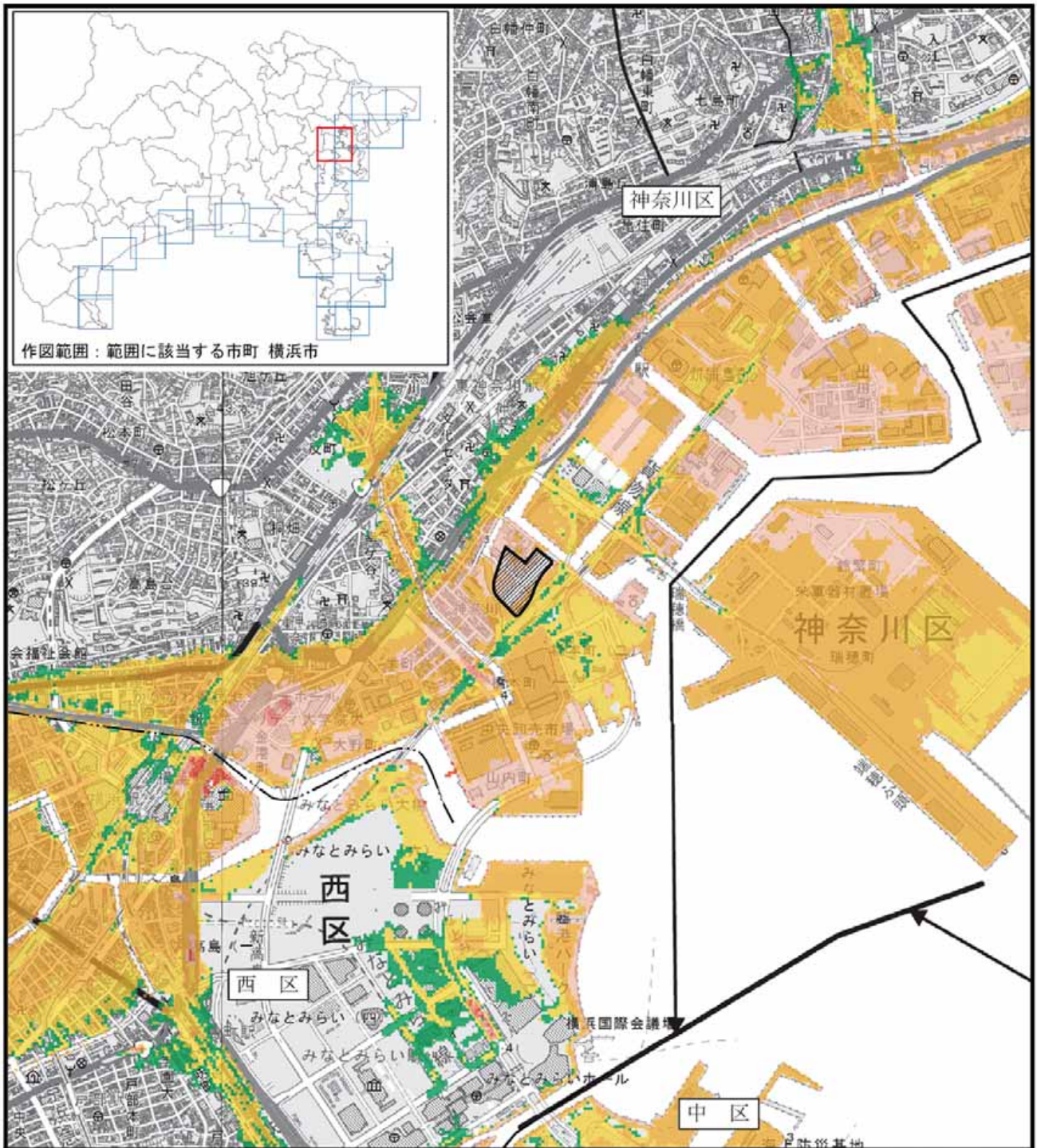
-  : 液状化危険度が高い (15 < PL)
-  : 液状化する可能性がある (5 < PL ≤ 15)
-  : 液状化危険度は低い (0 < PL ≤ 5)
-  : 液状化危険度はかなり低い (PL=0)

資料：「液状化マップ」
(横浜市総務局ホームページ、平成28年4月閲覧)





1:20,000





作図範囲：範囲に該当する市町 横浜市

凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 区 界










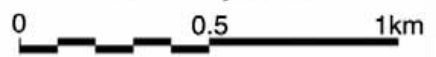
浸水深	
	0m~0.3m
	0.3m~1.0m
	1.0m~2.0m
	2.0m~3.0m
	3.0m~4.0m
	4.0m~5.0m
	5.0m~10.0m
	10.0m~20.0m
	20.0m~

図 3.2-26 津波浸水予測図
(対象地震：相模トラフ沿いの海溝型地震（西側モデル）)



1:20,000



資料：「津波浸水予測図」（神奈川県ホームページ、平成28年4月閲覧）